

シークレット・サンタへのお誘い

小 見 の ぞ み

関西学院が始まり125年目のクリスマスに、創立者ウォルター・ラッセル・ランバスとプレゼントのことを一

現在の西宮聖和キャンパスには、2009年の合併まで聖和大学があり、その学校の源流のひとつは、ウォルターの母、メアリー・イザベラ・ランバスが神戸ではじめてランバス記念伝道女学校でした。関学が当初男子校だったのに対して、メアリーの学校は、バイブルウーマンと呼ばれる女性の働き手を育てる学校でした。女性が学ぶことなどなかった時代に、メアリーお母さんが創った小さな学校は、女生徒たちを教室で育てるほか、地域の貧しい人たちに無料診療所を開き、「欧亜混血児」のための学校を設け、女工たちに伝道し、保育に欠ける子どもたちを養育するなど、日本の女性たち、子どもたちのために様々な事業もしていました。学校自体が周囲へのプレゼントでしたから、なすべきことはたくさんありましたが、いつもお金はありませんでした。

メアリーお母さんは、夫の死後いったん米国に引き上げたものの、よほど心配だったのでしょう、1895年に再来日し、健康をそこなう1901年まで神戸で学校のために自分の全てをささげて働き、1904年に亡くなりました。そのころウォルターは、海外宣教の重要なポストに就き、世界中を駆け巡る多忙な日々を送っていましたが、1907年、日本のメソジスト教会の合同のため、全権大使として両親亡き日本を訪れました。

わたしはこの夏、聖和の歴史刊行の作業中、ウォルターがその超多忙な日本滞在中に、母の愛した学校を訪れていた写真を見つけました。そして、当時の校長の報告には、ウォルターが、校舎の修理代と生徒たちの伝道実習旅行費用を出してくれたとありました。経済的困窮の中、弱く貧しい立場におかれた日本の女性と子どもたちのために働き続ける小さな学校へ、ウォルターはプレゼントをしていたのです。

サンタクロースの起源と言われる聖ニコラスは、貧しい三姉妹の家の窓から、夜中にこっそり金貨を投げ込んだと言われています。隠れて、そっと、誰かを支える愛の贈り物をする — それがサンタクロースであり、ウォルターの姿が重なります。今年のクリスマス、大切な人のためにだけでなく、世界のどこかであなたを必要とする誰かの、シークレット・サンタになりませんか。

(聖和短期大学宗教主事)